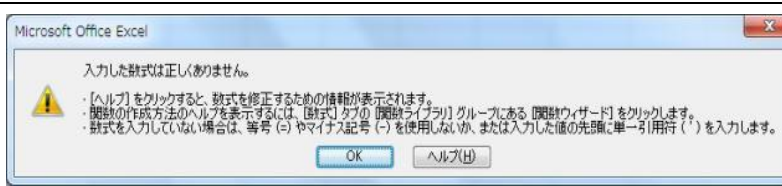
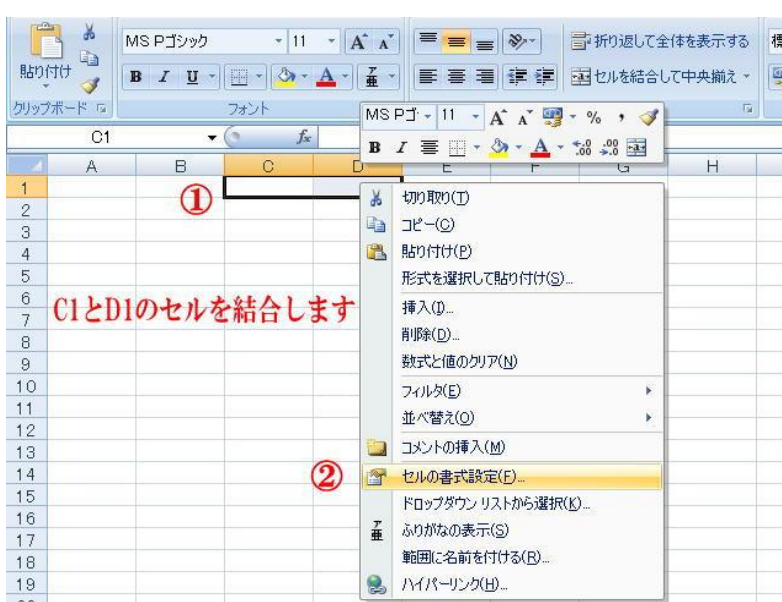


1. セルの位置はお作りになる方々のページレイアウトで作成してください。ここに表示されたセル番号は置き換えて作成してください。

セル B1 に左図の関数を入力してください。入力する場所は**数式バー**です



2. 入力後 Enter キーを押すと左図のようなメッセージが表示されたら**入力ミス**です。間違いを**修正**しましょう。



3. C1 と D1 を結合しましょう。ヴィスタ以降はリボンの中に「セルを結合して中央揃え」があります。XP はメニューの中にあります。それらのアイコンをクリックすれば「結合」できます。左図は右クリックでメニューを表示して、「セルの書式設定」から結合できます。



4. セルの書式設定から、「配置」タブを開きセルを結合に**チェック**を入れ「OK」をクリックします。

MS Pゴシック 11 A A 折り返して全体を表示する 標準

貼り付け B I U 挿入 セルを結合して中央揃え

クリップボード フォント 配置

C1 =IF(B1="", "", DATE(YEAR(B1), MONTH(B1)+1, DAY(B1)-1))

	A	B	C	D	E	F	G	H
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								

=IF(B1="", "", DATE(YEAR(B1), MONTH(B1)+1, DAY(B1)-1))

C1、D1のセルに上記関数を入力します。

5. 結合されたセルに、左図の**関数**を入力します。

ページレイアウト 数式 データ 校閲 表示

11 A A 折り返して全体を表示する 標準

挿入 セルを結合して中央揃え

フォント 配置 数値

J2 =\$B\$1

	D	E	F	G	H	I	J	K	L
	月の家計簿				毎日の記録				

=\$B\$1

J2に上記の絶対参照を入力します

ここには日付を入れますが、B2に入力「年」を認識して「日」が自動的に表示されます。

6. 毎日の記録の処に「日」と「曜日」を自動的に表示するよう「**書式**」を設定します。

セル J2 に「**=\$B\$1**」と入力します。
これは「**絶対参照**」と言って数式をコピーした時、コピー先でそのセル範囲に合わせて行番号と列番号が変化する参照の仕方。
<http://www.relief.jp/itnote/archives/000434.php>

11 A A 折り返して全体を表示する 標準

挿入 セルを結合して中央揃え

フォント 配置 数値

K2 =IF(J2="", "", TEXT(J2, "aaa"))

	D	E	F	G	H	I	J	K	L
	11 月の家計簿				毎日の記録				

=IF(J2="", "", TEXT(J2, "aaa"))

K 2 にIF関数を入力します

7. K2 のセルに左図の**関数**を入力します。

MS Pゴシック 11 A A 折り返して全体を表示する 標準

挿入 セルを結合して中央揃え

フォント 配置 数値

D23

	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
	2011 年		11 月の家計簿				毎日の記録			

試しに2011年11月と入力して見ましょう

8. この辺で試しに入力してみましょう。
B2 に 2011、D2 に 11 と入力してみましょう。

MS Pゴシック 11 A A 折り返して全体を表示する 標準

挿入 セルを結合して中央揃え

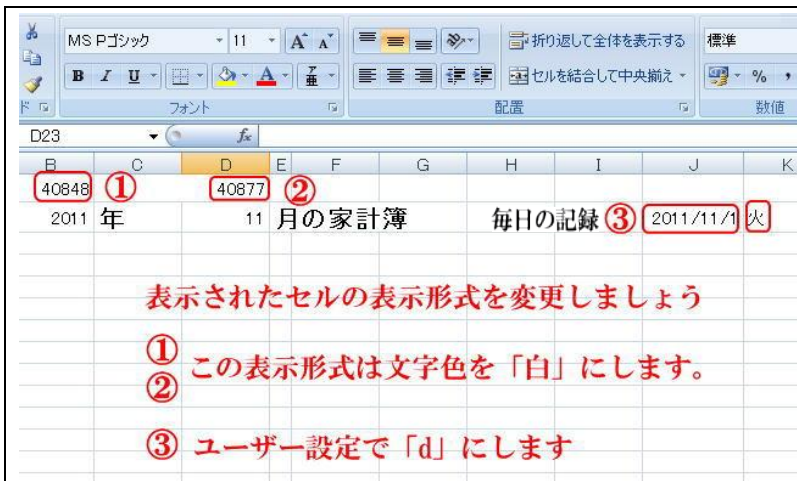
フォント 配置 数値

D23

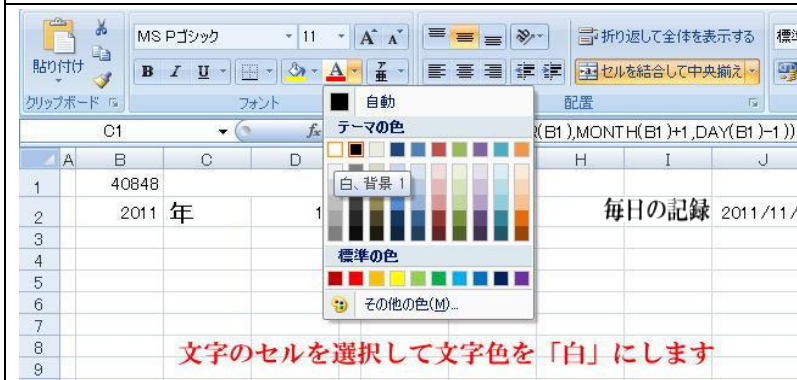
	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
	40848		40877				2011 年	11 月の家計簿	毎日の記録	2011/11/1 火

いろいろと数値が表示されました。
この表示によって今まで入力した関数は正解です

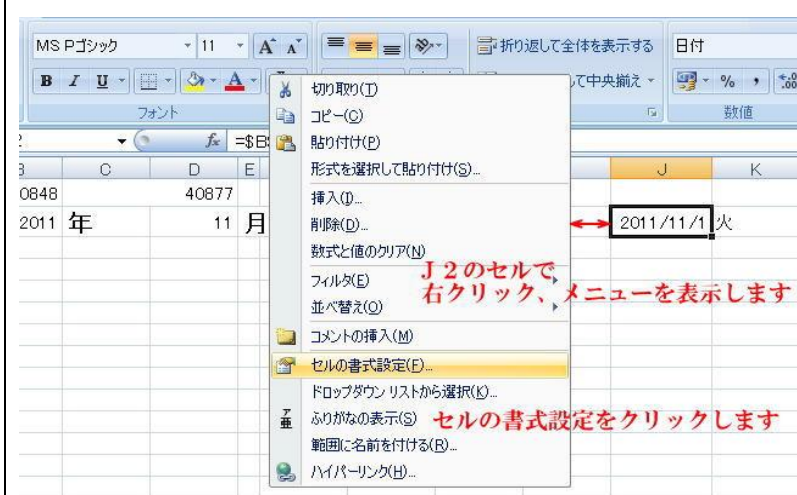
9. B1 と、D1、J2 に数値が表示されました。
この表示によって、入力した**関数**は正しかった事が証明されました。



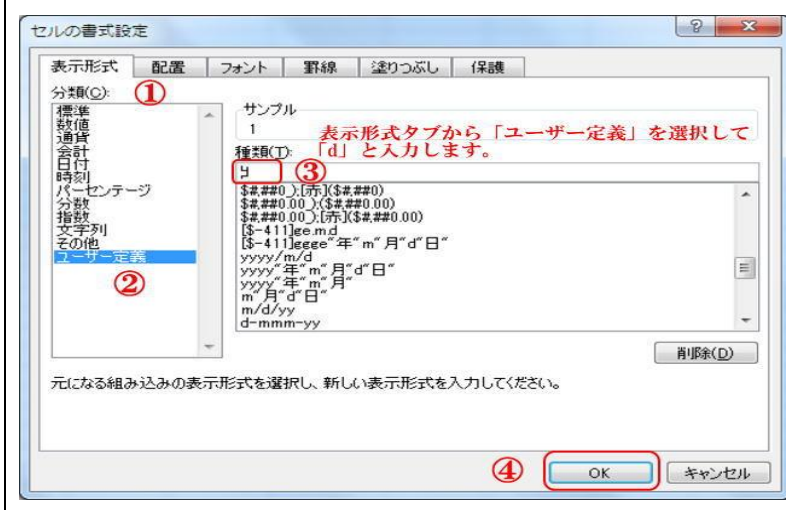
- 10.
- ①の数値の文字色を「白」に設定します。白の背景に白い文字、見えなくなります。
- ②も同様にします。
- ③は表示形式を「ユーザー定義」で「d」にします。



- 11.
- 文字色を白にする方法です。



- 12.
- J2のセル上で右クリック、展開されたショートカットメニューから、セルの書式設定を選択します。



- 13.
- ①表示形式から②のユーザー定義
- ③に「d」と入力して「OK」をクリックします。ユーザー定義の中で、種類の中に「d」がなければ「d」を入力してください。次回からは「d」が保存されます。

L2のセルに関数を入力します。この時数値が表示されれば正解です。

14.
L2に左図の関数を入力してください。
L2に数値が表示されれば入力に誤りは有りません。

M2のセルに関数を入力します。この時「水」と表示されれば正解です。

15.
M2に左図の関数を入力します。
曜日で「水」と表示されれば正解です。

L2のセルを表示形式で変更しましょう

16.
L2の数値を表示形式で変更しましょう。

前回「d」の種類を作って有りますので「d」を選んで変更しましょう

17.
セルの書式設定から、表示形式を「ユーザー定義」で種類に「d」を選択します。

**L2とM2のセルを選択して+ボタンで右へドラッグしましょう
ドラッグするセルの数は60個(BS)にしましょう**

18.
L2とM2を選択して+のハンドルをドラッグしてセル60個分右へコピーしましょう。
セル番地BSまでドラッグします。

以上で絶対参照を使って毎日の記録のセルに自動的に日付や曜日を表示するよう「設定」をしました。関数を利用すれば、容易にできることを理解してもらえたと思います。次回は表の中の計算式について解説します。